

■各種調査等に基づく課題の整理及び分析結果						資料 12
	調査項目	分野	まちの強み（活かすことができる部分）	まちの弱み（改善すべき部分）	分析結果	
統計データの視点	基礎調査	人口構造	○近隣都市からの流入が多い ○市街地やそれに近接する地区で、人口が微増	○人口減少、少子高齢化の進行（自然減が著しい） ○都市部（千葉市、東京都）への流出が多い ○主基地区などの中山間部や小湊地区、天津地区で人口減少、過疎化が顕著	◆人口減少の主な要因として、自然動態の減少が著しい ◆地区によって人口増減・高齢化に格差がある ◆人口減少による納税対象者の減少により、市税の減少が懸念される ◆高齢化の進展により民生費の増加が懸念される ◆医療・福祉施設や教育環境が充実しており、市の強みとなっている	
		産業	○医療・福祉に関する就業者が増加傾向 ○海水浴シーズンの8月、初詣のための1月に観光客が多い	○就業人口の減少。特に農業及び林業、建設業、卸売小売業の就業者が減少 ○農業、商業の衰退（特に買回品の地元購買率が減少） ○観光入込客数の減少		
		教育、健康・福祉	○幼保一元化の実施、小中一貫教育の推進 ○総合運動施設などスポーツ拠点施設の充実（プロ野球のキャンプ地など） ○大学教育関連施設の立地、大学との交流事業の実施 ○医療・福祉施設の充実、人口に対する病床数は県内でも最高水準	○市民会館の老朽化 ○小中学校等の統廃合により遊休施設が増加		
		行財政運営	－	○財政力指数が低く、自主財源の大部分を占める市税が県全体割合を下回り、国・県等への依存が高い ○高齢化の進展により、民生費が歳出の多くを占め、増加傾向にある		
市民の視点	地区別懇談会 団体長会議	行財政運営	○ふるさと納税の推進	○人件費等の削減、財源の確保 ○きめ細かい意見聴取機会の創出	◆観光業と他の産業との連携（6次産業化など）による活性化が求められている ◆災害に強い都市が求められており、施策の優先度も高い ◆医療・福祉環境を活かした高齢者対策や子育て支援の充実による若者の定住促進が求められている	
		生活環境	○自然環境・景観の保全と活用	○消防、防災・防犯、交通安全、公害防止等の安全安心に関する改善・充実		
		交流・人権	○地域のコミュニティ活動の促進、市民と行政との協働によるまちづくり ○大学との連携や国際交流・都市間交流の促進	○市民会館の老朽化 ○地域コミュニティの維持、自治組織への加入率を上げる		
		健康・福祉	○子育てボランティアに対する支援 ○地域の健康づくり活動の促進 ○地域医療環境のための看護師の確保、国保病院の整備	○子育て環境の充実、若者定住の促進 ○高齢化の進展（高齢者施策の充実） ○障害者の自立支援、バリアフリー化の促進		
		産業・経済	○観光資源の発掘・創出による滞在型・体験型観光の推進 ○観光イベントの開催、観光情報の発信、外客受入れ体制の充実 ○住宅の取得等支援、U J I ターンの推進 ○6次産業化、農商工連携の推進	○観光案内看板の設置、街路灯の整備 ○商店街の活性化支援 ○農業の担い手育成、有害鳥獣対策 ○漁港の整備、水産資源の増繁殖の促進		
		生活基盤	○計画的な土地利用の推進（都市計画区域の見直し） ○コンパクトシティによるコミュニティの形成	○国・県道などの幹線道路や市道の整備（渋滞緩和、防災、交流、買い物弱者救済など） ○鉄道、高速バス、市内路線バスなどの充実		
		教育・文化	○小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用 ○生涯学習活動、芸術・文化の振興、青少年健全育成活動の促進 ○歴史資源や文化財の適切な保全及び活用	○学校教育、幼児教育の改善 ○スポーツ施設のバリアフリー化		
	まちづくりアンケート調査	○定住意向が高い（市内定住意向が約80%） ○保健サービスや健康づくり、消防、広域行政、環境美化等で満足度が高い ○豊かな自然環境、充実した保健・医療・福祉環境、良好な景観について魅力が高い ○将来のイメージとして、自然環境・景観を大切にする都市、保健・医療・福祉が充実した都市、災害に強い都市が求められている（職員アンケートも同様）	○産業分野（商業振興、雇用等）、交通分野（道路整備、公共交通等）での満足度が低い ○防災対策、道路整備、行財政運営の健全化の取組みに対する優先度が高い（加えて、職員アンケートでは子育て支援の優先度も高い） ○行政経費の削減と組織のスリム化、人材育成の取組みの重要度が高い			
	まちづくり市民会議（第1回）	○観光の振興（観光（感幸）、インバウンドの推進など） ○地産地消（6次産業化） ○資源の集中と選択（医と観光で職場作り、鴨川ブランドなど）	○人口減少問題（若者に対する環境づくり、住みたいと思うまちづくり、健康長寿など） ○子育て環境の充実（少子化の改善） ○若者の定住促進（ヤングタウン、元気なまちづくりなど）			
	市外からの視点	鴨川ふるさと会会員アンケート調査	○行事・イベントや歴史・文化に関する情報提供が求められている ○豊かな自然、温暖な気候、医療の充実が強みである ○将来イメージとして、保健・医療・福祉が充実した都市、自然環境・景観を大切にする都市、地域資源を活かした観光の都市が求められている ○将来像にふさわしいキーワードは、活力、住みやすい、安全・安心が多い（職員も同様）	○Uターン意向は低い ○帰郷するために必要な条件として、「医療や介護の面で不安がない」、「買い物に不便がない」ことが求められている。	◆鴨川市へのUターンや移住の意向は低い ◆鴨川市の認知度や来訪経験は高いが、リピーターが少ない ◆市内の資源である保健・医療・福祉環境や教育環境に対する認知度が低い	
ウェブアンケート調査		○鴨川市の認知度は高い（約80%は来訪経験がある、知っている） ○来訪目的の90%は観光目的で、今後の来訪意向も高い ○将来住みたいと思う都市像として、自然環境・景観を大切にする都市、災害に強い都市、保健・医療・福祉の充実した都市が求められている（市民アンケート調査と一致） ○来訪資源として、自然環境、新鮮な食材、景観、観光施設、充実した宿泊施設が挙げられる ○定住資源として、充実した保健・医療・福祉環境が挙げられる	○鴨川市への来訪頻度、リピート率が低い ○鴨川市への移住意向は低い ○市民が魅力と感じている保健・医療・福祉環境や教育環境について、市外居住者からは本市のイメージとして認知度が低い			
分析結果			◆各属性共通して、自然環境、医療・福祉環境、景観が魅力資源としてあげられ、これらを活かしたまちづくりや、災害に強いまちづくりが求められている ◆「市民が魅力や誇りと感じこれからのまちづくりに活かしていくべき本市の持ち味」と市外居住者が求める都市像が一致しており、本市の強みとなる資源に対する潜在的ニーズが高い（市民が求める将来像についても一致） ◆他地域からの移住意向は低いものの、市民の定住意向は高い	◆人口減少対策として、若者の定住促進や子育て支援に関する施策が求められている ◆産業分野（農業、商業の衰退）や交通分野（幹線道路網の整備、公共交通の充実）の取組みが急務である ◆自主財源が少なく、国・県と連携した財源の確保と歳出の抑制による健全な行財政運営が求められている ◆遊休施設や公的不動産の有効活用が求められている		